



**SAITAMA
TRIENNALE
2016**
さいたまトリエンナーレ 2016

さいたまトリエンナーレ2016 プレスリリース

2015年3月25日

さいたまトリエンナーレ実行委員会

ごあいさつ	1
I 開催概要	2
II ディレクターメッセージ	3・4
III 事業の構成	5・6・7
IV 開催エリア	8
V ロゴ	9
VI 運営組織	10
VII ディレクターチーム	11・12
VIII 今後のスケジュール お問い合わせ先・公式ウェブサイト	13

ごあいさつ



文化芸術は、人々の創造性を豊かにし、生活にゆとりと潤いをもたらし、豊かな人間関係を育むだけではなく、その創造性によって新たな産業を生み出すなどの経済効果をもたらし、ひいては地域の活性化に結びつくなど、大きな可能性を秘めています。

さいたま市は、こうした文化芸術が持つ力を活かし、「生き生きと心豊かに暮らせる文化芸術都市」を創造するため、2012年4月1日にさいたま市文化芸術都市創造条例を施行しました。

「さいたまトリエンナーレ2016」は、この条例に基づき、「文化芸術都市さいたま市」の創造に向けた象徴的・中核的な事業として、2016年秋に開催いたします。



テーマは「未来の発見！」。

126万人を超える市民が生活する「さいたま市」を舞台に、アートのための祭典ではなく、市民がアーティストと協働して、自分たちの未来を探していく、「市民の想像力の祭典」にしたい。この開催テーマには、ディレクター芹沢高志氏による強い思いが込められています。

開催テーマ「未来の発見！」のもと、国内外で先進的な活動を展開するアーティストがさいたま市を訪問・滞在し、市民と交流しながら、市内各地で様々なアートプロジェクトを展開します。

私たちは、「さいたまトリエンナーレ2016」の開催が、さいたま発の先進的な都市文化「さいたま文化」の創造・発信、さいたま文化を支える「人材」の育成、さらにはさいたま文化を活かした「まち」の活性化につながり、さいたま市の未来、そして世界の人々の未来を発見するきっかけになるものと確信しています。

「さいたまトリエンナーレ2016」に多くの皆様のご賛同とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2015年3月

さいたまトリエンナーレ実行委員会会長
さいたま市長 清水 勇人

II ディレクターメッセージ



「さいたまトリエンナーレ2016が目指すところ」

さいたまトリエンナーレ2016が目指すのは、2016年のさいたま市に、世界に開かれた創造と交流の現場をつくりだすことにほかなりません。

現代の日本社会は大きな転換期にあると言えるでしょう。いや、日本だけではない。世界的にこれまでの構造が激しく揺らぎはじめ、私たちには自分たちの未来が見えにくくなってきています。だからこそ、今、私たちは想像の力を羽ばたかせ、誰かから与えられた一つの未来ではなく、自分たちが生きてゆく未来を、自分たち自身で、足元から見つめ直していくことが求められていると思うのです。

このような認識のもとに、私はさいたまトリエンナーレ2016のタイトルを「未来の発見！」としました。

現在では世界各地でビエンナーレ、トリエンナーレといった国際芸術祭が頻繁に開催されていますが、まちで展開する以上、それはまちに関わるすべての人々に開かれたものにしなければなりません。まちとはただの建物や道路の集積ではなく、歴史や文化といった時間的な過程をも含めた、人々の営みの総体です。その意味で、私はこのトリエンナーレを「ソフト・アーバニズム」=「柔らかな都市計画」と考えたい。文化、芸術を核として、まちの営みに創造性を吹き込むための社会的な実験です。

もちろん祝祭空間の創出には力を入れますが、今回トリエンナーレでは、トリエンナーレ終了後も続くような創造的市民活動の芽をいかに多くつくりだすか、そしてその活動が持続的に展開できるような社会的な枠組みをいかにつくりだすか、そうした目には見えにくい地道な取り組みにも力を注いでいきたいと考えています。

アートは想像の力によって、現実のまた別の姿、もう一つの風景、置き去りにされた想い、消え入るような小さな叫び、ささやかな日々の喜び、思ってもいなかった可能性、そんなことを生き生きと、私たちの目の前に浮かび上がらせてくれるものです。新たな目で過去、現在を見つめ、未来を夢見る。さいたま市は人が生きる現場であり、日本を代表する「生活都市」です。自発的な市民活動も盛んに展開されています。いのちの未来を夢見るとき、こんなにも適切な場所はありません。

各アートプロジェクトでは、国内外で先進的な活動を展開するアーティストがさいたま市を訪れ、ここに滞在し、市民と交流し、制作のプロセスを共有して、この場所でしか構想し得ない作品をつくっていきます。そしてここに生まれる交流と創造の現場において、市民一人ひとりがアーティストの優れた直観に触発されて、自分たちの生きていくこれからの未来を、それぞれに「発見」していくことになるのです。

2015年3月

さいたまトリエンナーレ2016 ディレクター
芹沢 高志

「ソフト・アーバニズム」としてのトリエンナーレ

ー 受動的なアート鑑賞から 能動的なプロジェクト参加へー

- そこに生活する人たちの関心を引き起こし、市民が創造のプロセスそのものに参加できるプロジェクトを重視します。
- 場所性を重視します。それぞれ特徴の異なる3つの地域を主要な開催エリアに設定し、遊休施設や屋外空間を活用してプロジェクトを展開します。
- アーティストの滞在制作を重視し、この場所でしか構想し得ないプロジェクトを生み出していきます。
- プレイベントの開催を含め、2015年から各種プロジェクトを始動させ、2016年のトリエンナーレ本番につなげていきます。
- トリエンナーレをきっかけとして、トリエンナーレ終了後も市民が自発的、継続的に展開しうる活動の芽を、なるべく多く生み出していくことを目指します。
- このトリエンナーレ全体を「ソフト・アーバニズム（柔らかな都市計画）」という概念でとらえ、まちの営みに創造性を吹き込むための社会的な実験と位置づけます。

Ⅲ 事業の構成



さいたまトリエンナーレ2016は、《実行委員会主催事業》と《関連事業》により構成します。

《実行委員会主催事業》

(1) アートプロジェクト

ディレクターが直轄し、国内外で先進的な活動を展開するアーティストが現地制作を基本として行う、インスタレーション、映像、演劇・ダンス・パフォーマンスなどの身体表現を主な手法とするプロジェクトを、市内各地で実施します。

■ 場所

以下の3つの地域を主要な開催エリアに設定し、主に遊休施設や屋外空間を活用して多彩なプロジェクトを展開します。

- ・ 武蔵浦和駅周辺～中浦和駅周辺（JR 埼京線）
- ・ 大宮駅周辺～さいたま新都心駅周辺（JR 京浜東北線、宇都宮線、高崎線）
- ・ 岩槻駅周辺（東武アーバンパークライン）

■ プロジェクト数

40～50プロジェクト程度を予定しています。

(2) プレイベント

開催前年となる2015年度に、以下のプレイベントを実施します。

① 種は船 プロジェクト in さいたま

「朝顔の種の形をした船」（船名：TANeFUNe）で海とも密接につながるさいたまの水路をたどりながら、人と人、地域と地域をつないでいくプロジェクト。

プレイベントでは、かつて荒川を通過して東京湾とさいたまを結んでいた定期船の航路を航行しながら、川や海にアプローチしていく過程や水辺の風景をドキュメント映像に収めていきます。また、さいたま市内では荒川河川敷などで水辺に親しむTANeFUNe 乗船体験やワークショップなどを行う予定です。

アーティスト：日比野 克彦 氏 ほか

開催時期： 2015年8月



種は船プロジェクト (TANeFUNe)
写真：喜多直人 (Naoto Kita)

② あなたが誰かを好きなように、誰もが誰かを好き

100枚もの布団でできた山に、駆け登ったり、転がったり、寝転んだり、普段だったら大人に叱られそうなことを思いっきりできる、子どもたちのための作品です。布団山の頂上にあるポストに、好きな人の絵を描いたカードを入れると、それが次の開催地で参加する子どもたちのもとに届けられます。

遊びと、純粹に誰かを好きな気持ちとがひとつの体験となり、見ず知らずの土地で暮らす子どもたちが次々につながっていきます。

アーティスト：小沢 剛 氏
開催時期： 2015年10月



あなたが誰かを好きなように、誰もが誰かを好き
2012年
写真：青木兼治
展示風景：豊田市美術館

③ HomeBase Project SAITAMA 2015

さいたま市独自のアーティスト・イン・レジデンス（AIR）のあり方を探る実験的なプロジェクト。「HomeBase Project (HB)」とは、人々にとって「家（Home）」とは何かを探求する移動型国際 AIR で、これまでニューヨーク、ベルリンなどの各都市において、空きビル、倉庫、集合住宅等を拠点に滞在制作と発表を行ってきました。

イベントでは、国内外のアーティスト6名が1ヶ月にわたり滞在することを想定。様々なアート表現を試み、その成果を発表します。

開催時期：2015年10月～11月



HomeBase Project
NYC/Berlin/Jerusalem/Saitama
a nomadic research & residency program
exploring the notion of home.



④ マイクロレジデンス・ネットワーク・フォーラム 2015

世界中で活動が行われているアーティスト・イン・レジデンス（AIR）の現在を知るため、国内外の AIR ディレクター、アーティストを招いたフォーラムを開催します。中でも「マイクロレジデンス」（小規模で質の高い AIR）に焦点をあて、教育的活動や地域課題への取り組み、国際ネットワークなどの多様な活動報告を行い、今後のさいたま市独自の AIR とは何かを参加者とともに考える機会とします。

開催時期：2015年11月

⑤ さいたまトリエンナーレ2016トークイベント

さいたまトリエンナーレやさいたまにゆかりのある各界の方々と、さいたまトリエンナーレ・ディレクターによるトークイベントを2015年度後半に開催します。

ゲストには、2015年度中にプロジェクト制作に取り組むアーティストや、アートに造詣が深い多彩な方をお招きし、さいたまの魅力、アートの魅力、さいたまトリエンナーレの試みや期待、見どころ、それぞれのプロジェクトなどについて語り合います。

開催時期：2015年秋以降

(3) さいたまスタディーズ

未来の発見とは、実は自分たちが住む場所の発見でもあります。さいたまトリエンナーレを実行していく上で「土地の理解」を重要な出発点と考え、地形、地質、植生、気象、歴史、文化など多方面から、さいたま市を横断的、即地的に見渡す調査研究を、アートプロジェクトに先行して行います。

(4) その他主催事業

オープニングイベントの開催など、多彩なイベントを計画します。

《関連事業》

(5) 市民プロジェクト

市内各地で開催されているアートフェスティバルなど、トリエンナーレの開催趣旨に賛同する市民や市内の文化芸術団体等が市内で主催する文化事業を「市民プロジェクト」として位置付け、相互協力・連携していきます。

(6) 連携プロジェクト

市内に所在する埼玉県立近代美術館、彩の国さいたま芸術劇場、鉄道博物館、うらわ美術館、大宮盆栽美術館、さいたま市文化センターなど多彩な文化施設において行われる事業のうち、「連携プロジェクト」として位置付けた事業について、相互に広報協力やチケット連携などを行う予定です。

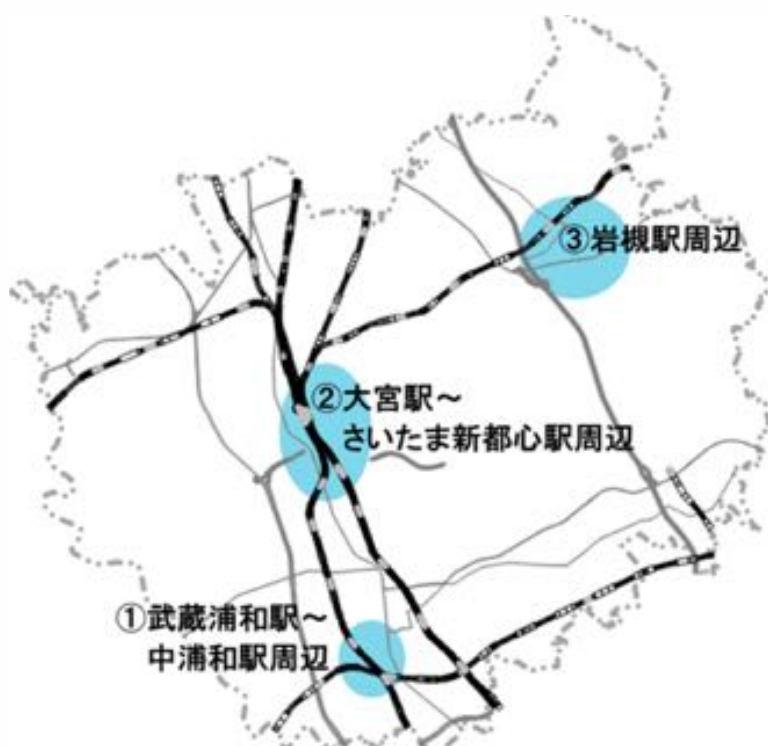
(7) その他関連事業

トリエンナーレ開催を契機に、市内企業等の各種事業所などで生まれる創造活動が継続的に展開できるよう、必要な支援を行っていきます。

IV 主な開催エリア



特徴の異なる3つの地域を主要な開催エリアに設定し、遊休施設や屋外空間を活用してプロジェクトを展開します。



① 武蔵浦和駅周辺～中浦和駅周辺

武蔵浦和駅から中浦和駅までのルート上に点在した屋内・屋外作品を、旅するように見てまわる回遊型・散策型作品体験エリアとします。

② 大宮駅周辺～さいたま新都心駅周辺

まちのにぎわいのなかに大小様々なイベント型・劇場型作品を出現させ、トリエンナーレとともにまちそのものを楽しむエリアとします。

③ 岩槻駅周辺

時間と空間のエアポケットのような展示サイトを確保して、圧倒的な非日常空間を創出するとともに、古くからの歴史を伝える岩槻市街地の日常空間との連携を図ることで、日常と非日常が交錯する不思議な体験を楽しめるエリアとします。

④ その他

主要3エリアのほかに、見沼たんぼや水辺など、さいたま市の象徴的な場所においてアートプロジェクトを展開し、体験ツアーを企画します。

V ロゴ



■ ロゴマーク及びロゴタイプ（基本使用パターン）



**SAITAMA
TRIENNALE
2016**
さいたま トリエンナーレ 2016

デザイン・コンセプト

広大な関東平野、澄み渡る空の広がり、豊かな水、さいたま市の多様な魅力を彩りにたどって表現しています。

トリエンナーレのコンセプトである「未来の発見！」につながるよう、無限の広がりを持つ空や水を表す青をベースにしました。

角度を付けた長方形はさいたま市の形を、両端の青の線はさいたま市の河川を想起させます。

中島 英樹

アートディレクター、グラフィックデザイナー

1961年、埼玉県生まれ。1995年、中島デザイン設立。ニューヨーク ADC 金賞 5 回、銀賞 8 回、東京 ADC 賞、東京 ADC 原弘賞、ニューヨーク TDC 賞、東京 TDC グランプリ、講談社出版文化賞ブックデザイン賞、その他、世界で受賞多数。世界各国で個展、グループ展を行い、2009 年には、中国の深圳にある THE OCT ART & DESIGN GALLERY 及び 2012 年には広島の大島 DAIWA PRESS VIEWING ROOM にて、大規模な個展を開催。作品は、各国の美術館、博物館等にパーマナントコレクションされている。AGI (Alliance Graphique Internationale) 会員。ニューヨーク ADC 会員。東京 ADC 会員。東京 TDC 理事。



VI 運営組織



1 実行委員会

顧問 上田 清司（埼玉県知事）
会長 清水 勇人（さいたま市長）
副会長 霜田 紀子（さいたま市議会議長）
佐伯 鋼兵（さいたま商工会議所会頭）
清水 志摩子（公益社団法人さいたま観光国際協会会長）
遠藤 秀一（さいたま市副市長）
監事 橋本 真一（関東信越税理士会浦和支部理事・税理士）
田中 洋一（さいたま市会計管理者）

委員

埼玉県立近代美術館館長、独立行政法人国際交流基金理事、日本政府観光局（JNTO）理事、国立大学法人埼玉大学教育学部准教授、公益財団法人東日本鉄道文化財団鉄道博物館館長、国立大学法人埼玉大学学長、芝浦工業大学システム理工学部教授、聖学院大学学長、さいたま市自治会連合会会長、一般社団法人埼玉県商工会議所連合会会長、埼玉県商工会連合会会長、埼玉県中小企業団体中央会会長、一般社団法人埼玉県経営者協会会長、埼玉経済同友会代表幹事、埼玉中小企業家同友会代表理事、株式会社埼玉りそな銀行社長、株式会社武蔵野銀行取締役頭取、公益社団法人埼玉中央青年会議所理事長、株式会社埼玉新聞社代表取締役社長、株式会社テレビ埼玉代表取締役社長、株式会社エフエムナックファイブ代表取締役社長、さいたま市文化協会理事長、公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団理事長、公益財団法人さいたま市文化振興事業団理事長、埼玉県県民生活部長、さいたま市教育長、さいたま市都市戦略本部長、さいたま市市民・スポーツ文化局長、さいたま市経済局長

総合アドバイザー

加藤 種男（公益社団法人企業メセナ協議会専務理事）

ディレクター

芹沢 高志（P3 art and environment 統括ディレクター）

（2015年3月25日現在）

2 市民サポーター

アーティストと市民の協働を一つの特色とするさいたまトリエンナーレ2016においては、作品の制作過程や開催期間中の運営など幅広い場面において市民の協力を得ることが不可欠です。トリエンナーレを支える市民サポーターを組織し、自主的な活動を支援しながら、連携を図っていきます。

3 企業、団体、大学等との連携

作品制作に対する各種資機材や設備、技術の提供などをはじめ、幅広い分野において民間企業や各種団体の協力が得られるよう働きかけます。また、幅広い知見と若い感性を有する大学コンソーシアムさいたま加盟大学との連携を図ります。

VII ディレクターチーム



■ 総合アドバイザー

加藤 種男（かとう たねお）

公益社団法人企業メセナ協議会専務理事

1948年兵庫県生まれ。1990年アサヒビール企業文化部の創設に際し同社に入社以来、アサヒ・アート・フェスティバル（AAF）、アサヒビール大山崎山荘美術館の立ち上げをはじめ、アサヒビールの文化活動すべてに関わる。我が国の企業メセナ（芸術文化を通じた社会創造）活動をリードし、2012年から現職。あわせて、「創造都市」の旗振り役として、2010年まで横浜市芸術文化振興財団専務理事を務めるなど、現在も各地域の地域創造を支援。また、「アート NPO フォーラム」創設に参加するなど NPO 活動の推進にも取り組む。

さいたま市においては、2012年からさいたま市文化芸術都市創造審議会会長として、「さいたま市文化芸術都市創造計画」及び「(仮称)さいたまトリエンナーレ基本構想」の策定（2014年3月）に関わる。

*元アサヒグループ芸術文化財団顧問

*2008年に芸術選奨文部科学大臣賞受賞



■ ディレクター

芹沢 高志（せりざわ たかし）

P3 art and environment 統括ディレクター

1951年東京都生まれ。神戸大学理学部数学科、横浜国立大学工学部建築学科を卒業後、株式会社リジオナル・プランニング・チームで生態学的土地利用計画の研究に従事。その後、東京・四谷の禅寺、東長寺の新伽藍建設計画に参加したことから、1989年に P3 art and environment を開設。1999年までは東長寺境内地下の講堂をベースに、その後は場所を特定せずに、様々なアート、環境関係のプロジェクトを展開している。2014年より東長寺対面のビルにプロジェクトスペースを新設。

帯広競馬場で開かれたとち国際現代アート展『デメーテル』の総合ディレクター（2002年）、アサヒ・アート・フェスティバル事務局長（2003年～）、横浜トリエンナーレ 2005 キュレーター、別府現代芸術フェスティバル『混浴温泉世界』総合ディレクター（2009年、2012年）を歴任。



■プロジェクトディレクター

伊藤 忍 (いとう しのぶ)

P3 art and environment プロジェクトディレクター

1988年、P3 art and environment の立ち上げに参画し、組織運営と、現代アートを中心とする展覧会や関連出版物の企画制作、イベント運営などを総合的に行う。

とちぎ国際現代アート展『デメーテル』(2002年)では招聘アーティストの選定交渉、作品制作・維持運営を担当。他に十勝千年の森(2004年～)、国東半島アートプロジェクト(2012年)での屋外恒久設置作品作家選定および制作など。

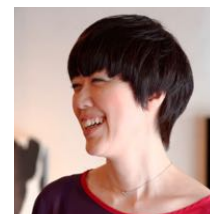


日沼 禎子 (ひぬま ていこ)

女子美術大学准教授、ARTizan プログラムディレクター、アートNPO リンク理事 (AIR ネットワーク準備会担当)

1999年より国際芸術センター青森の設立に関わり、2011年まで同学芸員としてアーティスト・イン・レジデンス (AIR) 事業を担当。AIR を中心とした展覧会、アートプロジェクトを数多く手がける一方、市民によるアートサポート組織の立ち上げや、空間運営などにも携わる。

また、2013年より、陸前高田市におけるAIRプログラムを新たに起動し、現在、プログラムディレクターを務める。



三浦 匡史 (みうら ただし)

NPO 法人都市づくり NPO さいたま理事・事務局長、地域生活デザイン代表

2001年に個人事務所「地域生活デザイン」を立ち上げ、翌年、「NPO 法人都市づくり NPO さいたま」の設立に参画。地域生活を豊かにするための環境整備プランニングや、都市計画マスタープランに係わる調査を実施する。

また、まちづくりへの市民参加を促進するためのワークショップやシンポジウムの企画運営をはじめとして、様々な市民団体や個人とのネットワーク形成事業を行っている。



森 真理子 (もり まりこ)

一般社団法人 torindo 代表理事、NPO 法人アート NPO リンク理事

2007年よりフリーランスで美術・演劇・ダンス・音楽など幅広いジャンルで企画制作を行う。「まいる RB」(舞鶴市)では行政や小中学校、老人福祉施設、商店街などと連携しながらアート事業を実施。

主なプロデュース事業に、シアターカンパニー「マレビトの会」(2007年～)、「種は船プロジェクト」(2010年～)、「とつとつダンス」(2009年～)など。2014年度文化庁新進芸術家海外研修員。



Ⅷ 今後のスケジュール

お問い合わせ先・公式ウェブサイト



2015 年度から以下の事業を展開していきます。詳細は、随時ウェブサイトで発表します。

■ プレイメント開催

- 2015 年 8 月 「種は船 プロジェクト in さいたま」(アーティスト: 日比野 克彦 氏ほか)
2015 年 10 月 「あなたが誰かを好きなように、誰もが誰かを好き」
(アーティスト: 小沢 剛 氏)
2015 年 10 月～11 月 「HomeBase Project SAITAMA 2015」
2015 年 11 月 マイクロレジデンス・ネットワーク・フォーラム 2015
2015 年秋以降 さいたまトリエンナーレ 2016 トークイベント

※プレイメントへのご参加、ご取材を希望される方は、事務局広報担当までお知らせください。
※プレイメント開催時に、プレストアーを行う予定です。詳細はメールニュースでお知らせします。

■ 第 2 回記者発表会 2015 年 9 月 (予定)

開催約 1 年前に決定したアートプロジェクトを発表します。

■ 第 3 回記者発表会 2016 年 3 月 (予定)

開催約半年前に、具体的なアートプロジェクト・参加作家を発表します。

【一般の方向けお問い合わせ先】

さいたまトリエンナーレ実行委員会事務局
(さいたま市 市民・スポーツ文化局 スポーツ文化部 文化振興課 トリエンナーレ係)

住 所 : 埼玉県さいたま市浦和区常盤六丁目 4 番 4 号
電 話 : 048-829-1226
ファクス : 048-829-1922

【報道関係者向けお問い合わせ先】

さいたまトリエンナーレ実行委員会事務局 広報担当 (N and A 内)

電 話 : 03-5545-3612
ファクス : 03-5545-3611
メールアドレス : press@saitamatriennale.jp

【公式ウェブサイト】

さいたまトリエンナーレ公式ウェブサイト (2015 年 3 月 25 日より公開)

<http://saitamatriennale.jp>